

## 第1回アジア女性スポーツ会議に参加して

生涯スポーツ学講座  
助教授 萩裕美子

はじめに

第1回アジア女性スポーツ会議が6月9日10日に大阪で開催された。この会議はNPO法人ジュース（JWS：スポーツに関わる女性を支援する会）が音頭をとり、大阪市、大阪国際交流センターとともに主催者となって行ったものである。この会議に準備の段階から関わり参画した立場で報告する。

### 1. 会議開催の目的

会議開催の主な目的はいくつかあるが、最も重要で且つきっかけになったことは、2006年に開催が予定されている第4回世界女性スポーツ会議の日本招致である。第3回世界女性スポーツ会議は来年モンリオールで開催されるが、第4回はアジア圏での開催が期待されている。しかし、今のところ決定はしていない。日本においては男女共同参画基本法も制定され、スポーツにおける男女共同参画推進も期待されている。この追い風を受けて、何とか第4回世界女性スポーツ会議を日本に招致できないものかと目論んだ。今回の第1回アジア女性スポーツ会議はそのための第1歩であった。

もう一つのねらいはネットワーキングである。アジアのネットワークと日本国内のネットワークをこの会議を機にして作り上げることであった。この会議にはアジアの14の国と地域（日本、シンガポール、マレーシア、タイ、韓国、ネパール、フィリピン、香港、モンゴル、スリランカ、カンボジア、インドネシア、シリア、台湾）が参加した。これは大いなる成果であったといえよう。

また国内においては会議開催のために後援として、中央行政機関3（内閣府、外務省、文部科学省）、地方行政機関3（大阪府、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会）、スポーツ関係団体12、

学会関係2、その他4、協力団体として女性のスポーツ実践現場を統括している各種団体9、企業関係9と、官、学、民の量的にも質的にも幅広い団体の協力を得た。またこれら諸機関は名目ばかりでなく、準備の段階から実質的にかかわりをもった。その結果、横のネットワークも出来上がった。

### 2. 会議の構成

会議は主に専門家対象のカンファレンス部門と一般大衆向けのフォーラム部門の2つで構成された。これは女性とスポーツの問題を専門家の間で深く討議することばかりでなく、一般の方へも幅広く啓蒙を行うという2面を兼ね備えた内容にすることが目的であった。カンファレンス部門への参加者は約500名、フォーラム部門への参加者は700名と、参加者数では大方その目的を果たしたといえる。

カンファレンスにおいては基調講演、アジア地域の女性とスポーツに関する実態調査の発表、9つのワークショップ開催と幅広いものであった。初めての試みで運営上の課題も多く残されたが、世界女性スポーツ会議に向けては良い準備段階となった。ここでは紙面の関係で詳細に触れることはできないが、抄録集と報告書を作成しているので、興味のある方はNPO法人ジュース事務局までお問い合わせ願いたい。

フォーラムではオリンピックメダリストによるトーク&トークとパネルディスカッションがあった。それぞれの選手経験、あるいは指導経験の中で、女性とスポーツについてどのように考えるか、今後どうあるべきか、体験談を交えた楽しいフォーラムとなった。

### 3. 「おおさかアクションプラン2001」

本会議の最終的な成果として「おおさかアクションプラン2001」が採択された。内容は以下のとおりである。

1. ブライトン宣言（1994）の原則、ウィンドホーク行動要請（1998）、及びIOCによる2つの世界女性スポーツ会議

(1996, 2000) で出された勧告を再認識するとともに、アジアにおけるすべての関連組織に対し、これらの勧告に署名し、遵守し行動を起こすことの要請をすること。

\* 日本においてはこの会議に先立ち、JOC がブライトン宣言に署名することを決め、開会式において JOC 副理事長の小粥氏により署名が行われた。

2. アジアにおける女性スポーツ推進のため、a) アジア女性スポーツワーキンググループ (AWG) の結成 b) アジアにおける連絡人のネットワークの確立 c) 隔年でアジア女性スポーツ会議 (ACWS) を開催する。以上3点を決議した。

3. ワーキンググループメンバー (暫定的) として、議長に小笠原悦子氏 (日本: ジュース理事長)、他6名が選出され承認された。

#### 4. 世界女性スポーツ会議の招致

日本の候補地としてすでに熊本市が名乗りでている。今回は世界女性スポーツ会議を管理運営している IWG (International Working Group on Women and Sport: 国際女性スポーツワーキンググループ) メンバーを招聘し、この会議終了後に熊本で IWG 年次会議を行う段取りで手配した。日本が開催地としてふさわしいかどうか、この第1回アジア女性スポーツ会議の評価が大きな決め手となる。IWG メンバー15名中9名が参加し、おおむねよい評価を得ることができた。開催地は今年12月1日に内々に決定され、来年5月に行われる第3回大会で公表される予定である。

関連情報は NPO 法人ジュースホームページ (<http://www.jws.or.jp>) 参照。